

令和 2 年 5 月 20 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03246

研究課題名(和文) オーストラリアと日本における先住民族による流域資源保全に関する環境人類学的研究

研究課題名(英文) Environmental Anthropological Study of Watershed Management among Indigenous people in Australia and Japan

研究代表者

友永 雄吾 (Tomonag, Yugo)

龍谷大学・国際学部・准教授

研究者番号：60622058

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オーストラリアと日本における先住民族の「伝統知」と近代技術に代表される「外来知」との相互作用について、流域資源保全に注目しつつ明らかにする。そうした相互作用がもたらす「共有の知」が個人や社会に与える積極的又は消極的な面について、生活現場の視点から明らかにする。さらに本研究は、治水と利水に加え、生態系として流域を位置づけ資源保全を人類学のみならず、経済学、国際関係学、システム工学などの学際的な知見から捉え直す。これにより、先住民族とその他諸アクター間とのネットワーク化に資するとともに、従来の先住民族研究に新たな局面を開くものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、先住民族の在来知と非先住民族の外来知の相互調整のあり方に関して、まず、地域社会の自発的活動の枠組みから捉えるのみでなく、先住民と外部アクターとの相互作用によって生起するものとして捉えようとした。次いで、オーストラリアと日本の先住民族コミュニティにおける流域の「環境保全」に対する人々の対応を比較検討した。更に、学際的な研究方法を用いることで流域の環境保全の様態を多角的に検討した。最後に、流域の「環境保全」をめぐる日本とオーストラリア双方の先住民族と研究者を含む諸アクター間で国際ワークショップを2回開催し、ネットワーク化を図り、その成果報告書を出版した。

研究成果の概要(英文)：The aim of the project is to clarify the interaction of indigenous traditional knowledge with modern scientific knowledge in regard to watershed managements in Australia and Japan. The project provides the illustrations of how such "common knowledge" emerged from the interaction of indigenous knowledge and modern scientific knowledge over indigenous individuals, community and wider society, highlighting people's daily lives. For integrating the existing watershed management that consist of water utilization and water control into a part of ecosystem from the interdisciplinary perspectives, this project strives for development of actor network among indigenous people and other stockholders.

研究分野：文化人類学

キーワード：先住民族の伝統知と近代科学の相互作用 環境保全 流域資源 先住民族と研究者との共同研究

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、先住民族の生態系に関する「伝統知」については、民族的アイデンティティとの関係、コモンズ論、「伝統知」と近代の科学知との融合の問題が議論の中心とされてきた。殊に、オーストラリア先住民族の「伝統知」と流域資源保全に関しては、先住民族とその他諸アクターが協働で管理するパートナーシップ形成の実践例が取り扱われてきた。しかし、そこでの議論は「伝統知」を一枚岩で賛美の対象としつつ、近代の科学的知識を負の要因として扱い、双方の「知」が拮抗するか、相容れないとする枠組みが中心であった。他方で、ローカルの「伝統知」が外来知の関与により変容し創造されていると指摘する議論も少なからず散見される。さらに、流域資源利用や管理に関する研究は、従来の国家による河川の治水に注目した研究から、先住民族を含む地域住民の利水を歴史的に解明する研究へと転換してきている。しかし、治水と利水のみでなく、生態系としての流域資源保全にまで範囲を広げるホーリスティックなアプローチにもとづく研究は限定されている。

### 2. 研究の目的

以上のことを踏まえて本研究では、先住民族の「伝統知」と流域資源保全の関係に注目し、そこにおける「伝統知」と外来知との相互作用や変容のプロセスと、その継承メカニズムを解明する。その際、流域資源保全の具体的な方法を人々の日常生活から解明する。さらに本研究は、治水と利水に加え、生態系として流域を位置づけ資源保全を人類学のみならず、経済学、国際関係学、システム工学などの学際的な知見から捉え直すことで、先住民族とその他諸アクター間とのネットワーク化に資する。

### 3. 研究の方法

まず、先住民族の流域の「環境保全」に関する「伝統知」の社会動態的な分析をする。そのために、地域社会に生成する「伝統知」を均一なものと捉えず、多様性と不均衡なものと捉えることで、従来の研究で軽視されてきた外部アクターとの相互変容の実態を解明する。さらに流域の「環境保全」のために地元の人々や当事者代表機関が対応してきた改変の制度と思想、そしてその変容過程を歴史的に明らかにする。

次いで、在来知と外来知との整合性を特定する。そのために、外来知が在来知にもたらずインパクトや、双方の「知」の相互調整のあり方を、それぞれの対象地域の人々の日常から注意深く分析・検討する。

最後に、流域の地域社会における諸アクター間のネットワーク化を図る。そのために、オーストラリアと日本の調査対象地における流域の「環境保全」に携わる諸アクター間の交流の場を創出する。

### 4. 研究成果

先住民族の在来知と非先住民族の外来知の相互調整のあり方に関して、地域社会の自発的活動の枠組みから捉えるのみでなく、先住民と外部アクターとの相互作用によって生起するものとして捉えようと試みた。

まず、オーストラリア先住民族に関しては、これまでのフィールドワークを通して構築してきた関係性を活用し、代表機関の職員やリーダーを中心に聞き取り調査を実施した。これにより当該先住民族の集団が継続する流域資源の利用に関する「知識」を「文化地図」としてデジタル化し次世代へ継承する実践が、連邦や州政府および国内外の大学とも連携を図ることで発展していることが明らかになった。アイヌ民族に関しては、当事者活動家と研究者からの聞き取りにより、先祖が利用した民具の「複製品」作成のプロセスとその展示を博物館との共同で実施するケースより在来知と近代知との相互作用について明らかにした。また、こうした先住民族の当事者による複製品の作成は、日本のみでなくオーストラリアでも展開されていることが判明した。さらに、これら民具の複製品の作成は、博物館との新しい関係性の構築に加え、当該先住民族について個人の経験や記憶、自然環境に深く根差した日常の生態的な知識の継承にも資することが分かった。

次いで、オーストラリアと日本の先住民族コミュニティにおける流域の「環境保全」に対する人々の対応を人類学に加え、経済学、国際関係学、システム工学さらには先住民活動家など多角的な視点から検討した。具体的には、2017年度と2019年度に国際ワークショップを開催した。2017年度のワークショップでは、オーストラリア2名(人類学者、アーティスト活動家)、日本2名(経済学者、アーティスト活動家)、台湾1名(人類学者)の先住民族バックグラウンドをもつ研究者や活動家と非先住民族の人類学者2名、国際関係学者1名、システム工学者1名の討論者を招き伝統知と近代知の相互作用に関する実践例を共有した。そこでは、「教育」、「環境」、「芸術」をテーマに先住民族の知識が近代技術や大学や博物館を代表とする近代知と調和または拮抗していることが判明した。2019年度のワークショップには、オーストラリアから先住民族の土地権問題を専門とする人類学者1名、日本からはアイヌ民族と教育や博物館を専門にする人類学者2名を招聘した。そこでのテーマは「応答の人類学」であり、非先住民族である研究

者としての立場から先住民族コミュニティや個人との相互関係に注目した経験を共有した。

このように、先住民族の学者や活動家に加え人類学、経済学、国際関係学、システム工学の専門家による知見を取り入れ、日本とオーストラリアでの流域の環境保全をめぐる現実的な問題を浮き彫りにできた。そこでは、従来の近代技術主義と自然環境主義との相克や、在来知の賛美や外来知の叱責に陥ることのない、「知」の整合性のメカニズムの一部を明らかにした。それに加えて、本研究では「環境保全」をめぐる先住民族とその他諸アクター間でのネットワークの機会を2回の国際ワークショップとそれらの報告書を作成することで創出した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Yugo Tomoaga, Yoshiro Yasuda	4. 巻 21
2. 論文標題 Comparative Study on Environmental Management of Catchment and Forest as the Water Source in Australia and Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 79 - 90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 友永雄吾	4. 巻 23
2. 論文標題 自己決定権と先住民	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際文化研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Akira Hiratsuka, Yugo Tomonaga, Kenzo Wakae, Yoshiro Yasuda	4. 巻 10
2. 論文標題 Study on Sustainable Water Resource Conservation: Toward Deepening of Homo Environmentics	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Water Resource and Protection	6. 最初と最後の頁 327-368
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="http://file.scirp.org/Html/6-9403414_83418.htm">http://file.scirp.org/Html/6-9403414_83418.htm</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yugo Tomonaga	4. 巻 1
2. 論文標題 Preface	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Workshop Proceedings: Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yugo Tomonaga	4. 巻 1
2. 論文標題 Sustainable Collaborative Management for Conserving River Water Quality in Japan and Australia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Workshop Proceedings: Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 友永雄吾	4. 巻 1月
2. 論文標題 先住民と自己決定権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考えたくなる人権教育キーコンセプト	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yugo Tomonaga	4. 巻 1
2. 論文標題 Sustainable Collaborative Management for Conserving River Water Quality in Japan and Australia.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proceedings for AAS 2016 Conference	6. 最初と最後の頁 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雄吾	4. 巻 1
2. 論文標題 オーストラリア先住民に学ぶ水の循環とこころの生態系	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 森の京都 山と水、隼人心の生態系シンポジウム	6. 最初と最後の頁 4 - 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雄吾	4. 巻 21
2. 論文標題 オーストラリア先住民運動：普遍性の主張と差異の承認をめぐる政治	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際文化研究	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 友永雄吾
2. 発表標題 オーストラリア先住民と法
3. 学会等名 科研研究会（小坂田裕子代表：「先住民の権利に関する国連宣言」の実効性 - 先住民・国家・国際機関への影響）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 友永 雄吾
2. 発表標題 国連先住民権利宣言とオーストラリア先住民について
3. 学会等名 第88回マイノリティ研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Opening remarks and closing remarks
3. 学会等名 International Workshop Call and Response in Indigenous Research Cases from Australia and Japan（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 友永雄吾
2. 発表標題 加藤博文教授の発表（アイヌ遺骨返還問題の本質）に対する指定討論
3. 学会等名 第5回公開学習会「人骨問題を考える連続学習会@京都大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Historic Legacy and Diversity of Australian Indigenous Peoples and Asian Immigrant Relations
3. 学会等名 The 11 International of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Disputaton after the Yorta Yorta Native Title case
3. 学会等名 Australian Anthropological Society2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友永雄吾
2. 発表標題 Indigenous Australians and Human Rights
3. 学会等名 Afrasian Research Centre AY2018 Research Seminar, Indigenous Peoples of the World and Human Rights: The Philippines, Australia and Japan
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Australian Aboriginal people at present
3. 学会等名 Round Table Talks:Hunter-Gatherers of the World nowにて
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Two Way Collaborative Management Approaches for Conserving River Quality in Japan and Australia
3. 学会等名 Anthropology of Japan in Japan Spring Workshop 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Sustainable Collaborative Management of Natural Resources in Japan and Australia
3. 学会等名 International Workshop-Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge Hosted by JSPS KAKENHI Grant Number 16K03246(Yugo Tomonaga) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Inweaving indigenous and immigrant histories in Australia
3. 学会等名 Global Migrations Hosted by the Centre for Global Migrations University of Otago, Dunedin (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 友永雄吾
2. 発表標題 「調査者のライフイベントとフィールドワーク人生」でのコメンテーター
3. 学会等名 第50回日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akira Hiratsuka, Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Relationship between Sound Waves and Water Quality Improvement
3. 学会等名 11th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics, Ho Chi Minh, Vietnam (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雄吾
2. 発表標題 オーストラリア先住民に学ぶ水の循環とところの生態系：日本とオーストラリアの先住民族の伝統的知識を事例に
3. 学会等名 山と水、隼人心の生態系シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yugo Tomonaga
2. 発表標題 Sustainable Collaborative Management for Conserving River Water Quality in Japan and Australia.
3. 学会等名 Australian Anthropological Society 2016 Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Yugo Tomonaga	4. 発行年 2020年
2. 出版社 rakusil	5. 総ページ数 62
3. 書名 Call and Response in Indigenous Research: Cases from Australia and Japan	

1. 著者名 関根 政美、塩原 良和、栗田 梨津子、藤田 智子、山内 由理子、鎌田 真弓、飯嶋 秀治、友永 雄吾、窪田 幸子、杉田 弘也、飯笹 佐代子、一谷 智子、小野塚 和人、村上 雄一、濱野 健、佐和田 敬司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 318
3. 書名 オーストラリア多文化社会論	

1. 著者名 友永 雄吾	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 192
3. 書名 スタディツアーの理論と実践	

1. 著者名 Yugo Tomonaga & Shincha Park	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アインズ株式会社	5. 総ページ数 98
3. 書名 International Workshop Proceedings: Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge	

1. 著者名 (公)世界人権問題研究センター(共編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 (公)世界人権問題研究センター叢書	5. 総ページ数 144
3. 書名 考えたくなる人権教育キーコンセプト(先住民と自己決定権担当)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Indigenous Peoples of the World and Human Rights  <a href="https://af.rasia.ryukoku.ac.jp/english/news/2019/02/february-18-2019-research-seminar-indigenous-peoples-of-the-world-and-human-rights-the-philippines-a.html">https://af.rasia.ryukoku.ac.jp/english/news/2019/02/february-18-2019-research-seminar-indigenous-peoples-of-the-world-and-human-rights-the-philippines-a.html</a>          Indiengoua Knowledge  <a href="https://researchmap.jp/tomou5/?lang=english">https://researchmap.jp/tomou5/?lang=english</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ナカタ マーティン  (Nakata Martin)	ジェームズクック大学・Indigenous Education and Research Center・Pro Vic-Chancellor and Professor	
研究協力者	マーティン リチャード  (Martin Richard)	クィーンズランド大学・School of Social Science・Senior Lecturer	
研究協力者	ゲイマン ジェフリー  (Gayman Jeffry)  (80646406)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・教授   (10101)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松島 泰勝 (Matsushima Yasukatsu)  (20349335)	龍谷大学・経済学部・教授  (34316)	
研究協力者	山崎 幸治 (Koji Yamasaki)  (10451395)	北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・准教授  (10101)	
研究協力者	田辺 明生 (Tanabe Akio)  (30262215)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授  (12601)	
研究協力者	栗田 梨津子 (Ritsuko Kurita)  (10632672)	神奈川大学・外国語学部・准教授  (32702)	
研究協力者	武者小路 公秀 (Mushakoji Kinhide)  (80053536)	大阪経済法科大学・アジア太平洋センター・名誉教授  (34427)	
研究協力者	藤戸 ひろこ (Fujito Hiroko)	みなみなの会・代表	
研究協力者	林 麗英 (Lin Liying)	龍谷大学・国際文化学研究所	
研究協力者	マホニー ウェイド (Mahoney Wade)	Senior Practice Support Officer	